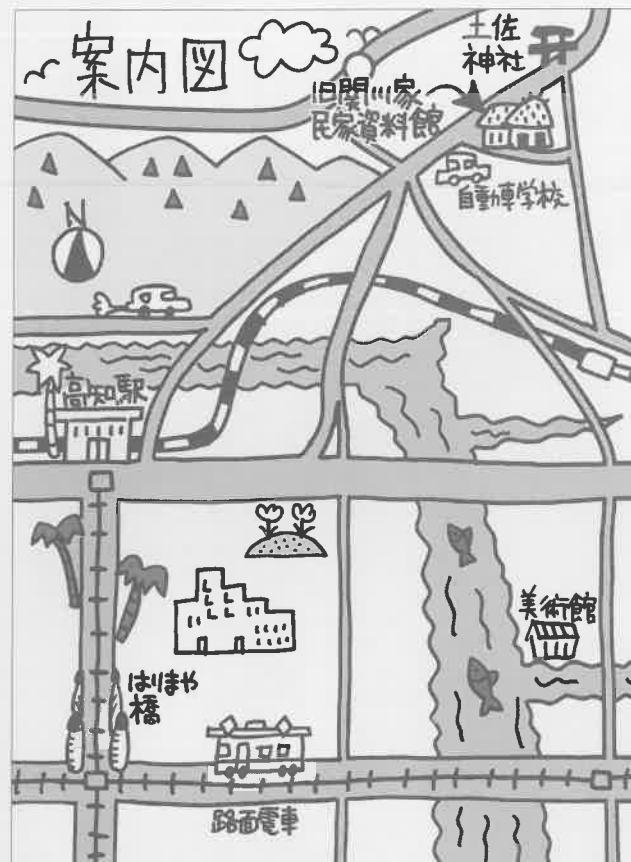


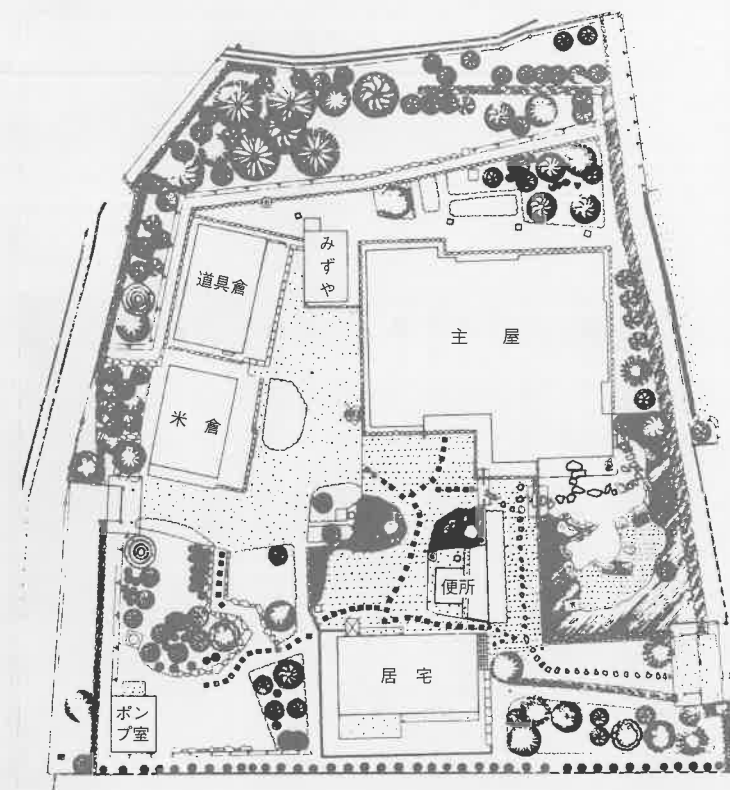
国指定重要文化財

高知市旧関川家 住宅民家資料館



屋敷平面図

面積1611㎡(488坪)



展示館のご案内

休館日	毎週水曜日／年末年始 ※環境整備のために臨時休館することがあります。
開館時間	午前9時～午後4時
入場料	無料
所在地	高知市一宮中町3丁目11-59 電話 (088) 845-8529

薬医門造りの表門から入ると、南向きに主屋を構え、主屋西側には二つの倉を並べた平地豪農民家の典型的な配置です。表門は主屋よりは後に建てられたものです。二つの倉のうち道具倉が先に建てられ、いずれも明治前半ごろの建築のようです。道具倉は切妻造り、外壁はすべて貼瓦で内部にもみられ、本県では珍しい両開き土戸です。米倉も切妻造りで、外壁の腰の部分は貼瓦です。外壁の水切りが倉をどつしりとみせています。

高知市

お問合せ 高知市民権・文化財課
〒781-8010 高知市棧橋通4丁目14-3 TEL(088)832-7277

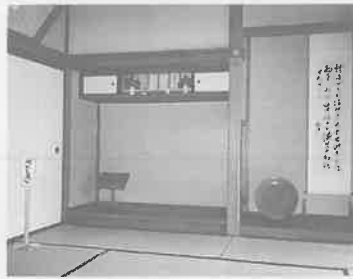


◆シキダイ (式台)

客を送り迎える部屋。地袋つきの棚のある脇床がある。天井には檜かけがあり、武士の面影を残している。

◆ザシキ (座敷)

高貴な人を迎える部屋。本床と天袋つき棚の脇床とがある。北側オクの間の境は大型の襖で仕切られているが、古くは土壁で仕切られていた。客間として完全に居住部からは隔絶されていた。



(座敷の間、南面に濡縁がある)

◆オク (奥)

居室と寝室とを兼ねていた。北側と東側との鴨居は、ほかの部屋の鴨居とは違った手の込んだ技術が用いられている点が目される。

◆ブツマ (仏間)

土佐の民家で仏間のある間取りはたいへん珍しい。寝室を兼ねていた。

◆オナゴベヤ (女子部屋)

窓のない土壁の部屋。女子の起居に使われていた部屋であろう。

◆イマ (居間)

細い棧を小間隔に取りつけた舞良戸という古風な板戸で仕切られた板間。座敷とは別の落ちつきがある。イロリの上に煙出しがある。



(クドとイロリのある居間)

◆ダイドコ (台所)

調味料の保存や食事室を兼ねていた。

◆ヨウノマ

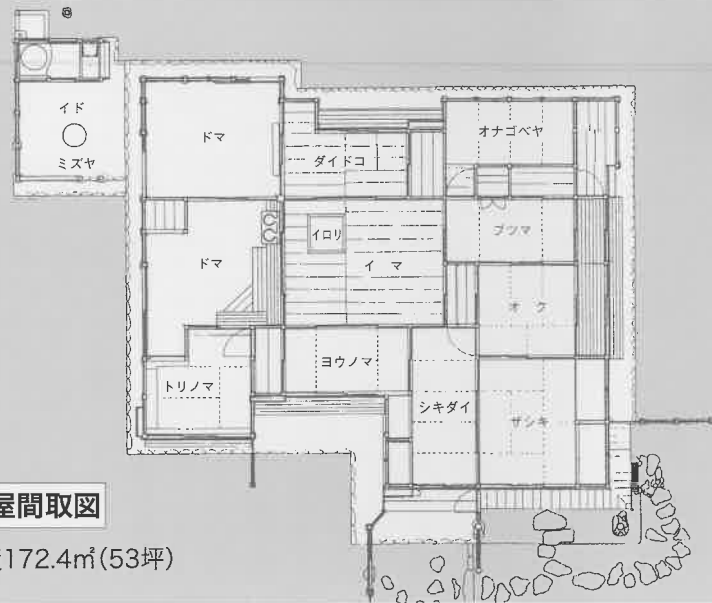
南に面した畳の部屋で、ここにも天井に檜かけがある。

◆トリノマ

建築当初はこの部屋はなく、ドマへの出入口があった。その後いつ現状のようになったか明らかではない。トリノマの意味も定かでない。

◆ドマ (土間)

倉が建築されるまでは物置場や作業場として使われたらしい。



主屋間取図

面積172.4㎡(53坪)

主屋の建築年代は座敷の間本床の壁下にある雑巾摺という部分に「于時文政二卯歳後四月上旬張之野田村大工彌左衛門作」と墨書されていることで知れ、文政2(1819)年に建築、または一部に手を加えたのでしょう。

屋根は寄棟造り、茅葺き。その茅葺きのまわり四面に瓦葺きの庇があります。シキダイ、ザシキの床、オナゴベヤ、ダイドコ、ドマなどはこの庇の下にあり、庇構造がよく発達している点に大きな特徴があります。

一般的な民家では居間や座敷を寝室に使いますが、関川家住宅ではオク、ブツマ、オナゴベヤを寝室として確保したために、ザシキの間が押し出されて、全体として鍵型となり、居住部と接客部がはっきりと区別されている点にも大きな特徴がみられます。

慶長5(1600)年土佐二十四万石の国主となつた山内氏は、それまでの国主長宗我部氏の遺臣たちの勢力を無視することができませんでした。そこで遺臣たちを庄屋として起用したり、また農業を営んでいる遺臣たちにも武士の身分を与えて不平不満を解消しようとした。そうしてできたのが郷士制度です。

関川家は織田信長の二子信雄の家臣で徳川姓を名乗っていました。將軍徳川家と同姓であるのを遠慮して関川姓を名乗るようになりました。そして寛政2(1790)年郷士となり、分家の数も増えて栄えてきました。

関川家住宅は分家筋ですが、今に郷士・郷農のたたずまいをみせています。昭和49年に重要文化財となりました。